

平成27年度第1回一宮市子ども読書活動推進懇話会・
第1回子ども読書活動推進会議合同会議 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成27年8月18日（火）午前10時～11時40分
- 2 開催場所 中央図書館 6階 多目的室1
- 3 出席者 懇話会委員：9名（欠席 1名）
推進会議委員：12名（欠席 6名）
事務局：8名

4 議 題

- （1）会長及び副会長の選出について
- （2）一宮市子ども読書活動推進計画の成果について
- （3）その他

5 開会

事務局（事務局が開会を宣言）

教育長挨拶

懇話会委員、推進会議委員、事務局自己紹介

6 会 議（要旨）

【議題1 会長及び副会長の選出について】

（事務局）議題（1）については、一宮市子ども読書活動推進懇話会設置要綱第4条第1項、第2項及び第3項の規定により、会長及び副会長を置き、会長は委員の互選により、副会長は会長の選任により選出。（任期：平成27年6月～平成29年5月）
会長、副会長が各自、就任の挨拶をする。
以後の議事進行は、一宮市子ども読書活動推進懇話会設置要綱第5条に基づき一宮市子ども読書活動推進懇話会会長が務めた。

【議題2 一宮市子ども読書活動推進計画の成果について】

（会長）議題2について審議願います。

（事務局）一宮市子ども読書活動推進計画（第2次）施策体系及び平成27年度子ども読書活動推進関連事業における取り組み状況表により施策事業ごとに事業の成果について説明。

（会長）葉栗と北方のほたる号のステーションのことで、地域の了解は得られているのかも踏まえてもう一度説明していただきたい。

（事務局）ほたる号につきましては、現在11ステーションが小学校です。これを目標値に近づけるために色々検討をしましたが、現在、ほたる号は1台なので、運行日数を拡大して更にステーションを増やすことが極めて困難です。それで、既存のステーションで、来年度からできるだけ学校に近い所で移転ができないものか検討をした結果、北方については、中屋敷公民館について、利用実績が39ステーションの中で一番小さいステーションであり、名岐バイパスを挟んで反対側に北方小学校がありますので、地域の方にとっても大きな違いにはならないということで、町会長さん等にお話をさせていただいてご了解を得ました。葉栗小学校についても、葉栗出張所長ともよく打ち合わせをして、これもまた道路を挟んで反対側に小学校がありますので、学校長のご了解を得て、地域の方に支障の無いような形で進めています。

(会長) あと他にご質問、ご意見等ありましたら、いかがでしょうか。

(委員) 取り組み状況のブックスタート事業の発展・強化の未実施のことですが、若いお母さん方には、自分が本を読まずに育った人もいます。図書館の場所も知らない、それから図書館に行くつもりもない、自分の子どもにそんなに本を読ませなくても自分も育ってきたんだし、読ませる気がないわというお母さんにどのように、図書館に来てもらえるかなと思うと、二つある。一つは自分の子どもが大きくなった時に、保育園、幼稚園や小学校で本の楽しさを知って、「お母さん、図書館へ連れて行って」と言われて図書館へ行き、図書館の楽しさを知る。もう一つは、お母さん自身が本の大切さを知る、そして自分から図書館へ行こうと思ってもらう。そうしますと、100パーセントお母さんが行かれるマタニティ教室とかその他の健診の時に、本についての何か取り組みがあって欲しい。

(会長) 事務局サイドで何か。

(事務局) ブックスタートにつきましては、ここに掲げられておりますように、マタニティ教室や1歳6か月健診でもう一度読書の大切さについてお話をできる機会があればと重々考えています。現状では、職員が外へ出向くだけの人数が非常に限られているので、今一度検討を進めているところで留まっています。また、ボランティアの皆様から、ブックスタートも少し研修等を拡充しなければいけないということも伺っています。一步ずつブックスタートの強化に努めていきたいと思えます。そこで、今年になってからブックスタートに、読書通帳を配布しています。少しでもお母さん方に図書館に近付いていただければと、赤ちゃんに読んであげた本を書いてもらうことでお母さんに少しでも本を読むことに親しんでいただければということで配布を始めました。色んな形でより子ども達に本に親しんでもらえるようにということをこれからも検討して参ります。

(会長) あと、これについてはタイアップしてみえる健康づくり課さんのほうで何かあるようでしたら、いかがですか。

(健康づくり課) ブックスタートについては、平成14年から取り組んでいて最初4か月健診で、一時9か月健診でやらせていただいて、保健師も未受診の方に本をお薦めしたりしていますし、本に対する大切さというのは機会あるごとに、ブックスタートの事業の紹介をする時に、保健師も必ず申し添えるようにしていますし、健診の案内とか広報の号外、健康ひろばのほうでも健診ではブックスタート事業をやっているというPRをさせていただいています。マタニティ教室や1歳半健診のほうでどのように強化させていくかということは、図書館と相談しながら行っていきたいと思えます。

(会長) 他にご意見ございましたら。

(委員) 先程の事務局の説明にあったように、今現在、色んな研修も必要だということ。まず、ボランティアと民生児童委員の研修も大事だと思います。(ブックスタートの) 私達の場所に見えた時の顔と、絵本を持って帰っていかれる時の顔とが随分違うので成功かなというところもある。そして、(4か月児健診時) 育児に関する色んな情報とかを伝える短い時間に、ご両親に、私達ボランティアと民生さんができるだけのことを伝えるスキルと何を伝えるかということをもっと研修しないといけない。もう一つは、健康づくり課のお知らせには書いてある「絵本を2冊もらえます」の一言だけでは、不足だと思う。例えば子育て支援のほうで健やかプランみたいなもの

があれば、その中に読書の理念みたいなものをきちんと入れ込んでほしい。生涯学習課でもフレママ交流会で今年度からそれに携わっているネットワーカーさん達が本当に読書のことが大事だということで日頃その交流会の中でも読書を伝えていたでいる。その中に図書館の職員が来てやるという事業も始まったので、すごくいい。また、地域からほたる号の場所が移動するということについて、そこの地域の了解を得ているかどうかということは、すごく大事な視点である。例えば空いている公民館で、果たして子どもの読書に関してのことがされているのかどうか。今この場において目標値、進捗状況の数字で職員の方たちの取り組みとかは分かるが、お母さんや子ども達の顔が見えてこない。一宮市が子ども読書のまち宣言を出して、それがどのように地域に広がっているのかがみえてこない。全市的に生まれた時から子どもの読書がすごく大事だよとせっかく決めた一宮市ですので、そのところをもう少しきめ細かく血が通っているような報告、話し合いがしたいと思う。読書通帳をするにしても色んな関係部署と交流があるので、こういう意見交換ということで、顔を繋げていかないと血が通ったものはできない。大げさでなくてもいいので、少しずつ、地域でお話することを努力できないかなと思う。

(会長) 今、ご質問いただきましたけれど、非常に大きな観点、要は子ども読書のまちを宣言したという一宮市の観点から、更にはボランティアをお続けいただいている方の意見としてボランティアグループ間のコミュニケーションとか横の連携、更には地域との関わり、これらについて今ではまだ前が見えてこないというようなご質問ですが、これについてご答弁を。

(事務局) いわれるとおり未実施というのは、ある期間に実施ということになっていくべきものだけれども、現状として人材が少し不足しているという状況です。ご承知のとおり大変厳しい財収状況の中では人員を増員するということは有り得ないという状況の中で、いかに工夫をして事業をより前に進めていくかということになる訳です。大変歩みが鈍く一歩ずつというところで申し訳ありませんが、一歩ずつでも目標に向かって近付いて行くように努力をしております。

(会長) ご質問の内容のほうは、関係係局も未実施については、少しでも前向きに進んでいただくということでお願いするということで、よろしいですか。他にご質問をどうぞ。

(委員) やはり子どもの力というのは想像する以上の力があるということを感じます。それで子ども読書のまち宣言をした一宮市ですので、図書館でもフェスティバルと名の付いた時に、子ども達も巻き込んだものがないものかと考える。例えば子ども達が企画して、その日は子ども達がちょっとしたクイズを小さい子達のために考えてあげたりとかという職員さんとボランティアも子どもも巻き込んでということができないかと。もう一つ、地域の方の話が出ましたが、地域にも一宮の歴史にすごく詳しい方がいらっしゃると思いますので、フェスティバルの時に、そういう方達に一宮に関するクイズをお願いして、それを子ども達に解くようなことをさせていただくと、地域の方も図書館の子どもに対するフェスティバルに参加できるように、もう少し広く子どもさん達とか地域の方とかも一緒にできるフェスティバルが実施することができたら、また違う図書館の風が吹くかなと思う。

(会長) 今の委員さんのご質問については、子ども読書活動を読書のまちとして宣言した一宮市の在り方の中で地域を巻き込んだ活動ができないかということは、非常に大

事なことだと思うが、中心となる図書館サイドの考えがあればどうぞ。

(事務局) もっと小学生、中学生が主体的に色んな事業に取り組んでもらえたらというのは、まさしくそれが理想であると思います。今年度、子ども司書講座を新しく始めました。その中で子ども達がどんなアイデアをこれから出してくるのかなと期待をしていますし、来年度、再来年度と子ども司書講座をどんな形で充実させていくかという中で、今の子ども達の主体的な活動あるいは地域を巻き込んだ活動にも発展していければと考えています。

(会長) 他にご意見は。

(委員) ブックスタート事業の発展・強化のところで、先程も予算のしぼりだとか人員の不足からのしぼりだとか色々あって中々ブックスタート事業を発展・強化させていくのが難しいというお話でしたが、やはり健診の時に、疲れているお母さんに、いかに働きかけられるかというのがすごく大事なところだと思う。ただ、アイデアを出していくのはすごく難しいと思うので、例えば、こういう懇話会の時に議題を特別に作って皆で意見を出しあったり、もう少し広くアイデアとか意見を求められたらと思う。

(会長) 私共が質問するだけではなく、私共も考えようということです。

(委員) ブックスタートのことで今お伺いしていたら、4か月健診を広い所を持っている各図書館で実施すれば、図書館がここだよという入り口にはならないかなと思うが、いかがでしょうか。

(事務局) 会場も含めて今後のブックスタート事業の発展については、健康づくり課とも色々と調整し、より良い方向を目指して行きたいと思います。

(委員) あと一つ、一宮市のある図書館には、若いお母さん達がカーペットに座って皆で話をしながら小さい子達は本の間をうろうろしている。図書館でおしゃべりはどうかなと思うが、子ども達が本に親しむ環境をそこで作ってくれているかなと思って、ちょっとほっとした光景を見たことがある。そうやってお母さん達が図書館に来てくれるということが一番大事と思う。

(会長) では、それについては引き続きご検討をお願いするというので、他にございませんか。学校サイドのほうはよろしいですか。

(委員) 不読率とかは27年度の調査を6月に行いました。低学年のほうは少し下がってしまったので目標値には達しなかったが、高学年、中学校も少しずつですが目標値に近付いているといういい傾向にある。不読率のほうは小学校は0、中学校は0.4と変わらずでしたけれども、一宮市をあげてこれだけ色んな方々が色んな方法で一生懸命子どものためにとっているということは、子ども達にも何らかの形で学校のほうからも伝えながら、本って本当におもしろいんだよ、すばらしいものなんだよ、お母さんを巻き込んでというものを学校として何かできることはないかという、気がした。お母さん方に読書の楽しさを知らせることを考えながら皆さんのご意見をいただいた。

(委員) お母さんが気を遣わなくても子どもを楽に図書館に連れて来られるような機会を作ってあげるのが大事である。ブックスタートにしても、例えば本をもらって、本と子どもを親しませてあげたいと思っていても、借りてきた本を汚してしまったり、破ってしまったりしたらどうしようと思う。そういうお母さん達の遠慮を少し取り除いてあげられる機会が何かないかなと考えたりする。

(会長) いずれにしても各委員さんが本と子ども達をどう結びつけるかを考えたいようなことで、皆様方各部局の方にも引き続き行政としてできることをお願いする。最後にこの進捗状況の一覧表を見せていただく限り、特に学校の役割の中で小学校高学年の数値が下がってきているのかなと、それから保育園さんの園児1人当たりの蔵書冊数が減ってきているが大丈夫かなというふうに考えるが、これもこの議題の成果の中間報告として受け止めさせていただき、28年度の目標値に向かって100%達成できる形をお願いして、議題2は了とする。

【議題3 その他について】

(会長) 議題3について審議願います。

(事務局) 特にございませんで、次回の開催日につきまして、平成28年2月頃を予定しております。以上でございます。

(会長) 本日予定しておりました議題は全て終了いたしました。長時間のご審議をいただきありがとうございます。

(教育長) お礼のことば

(事務局) ありがとうございます。これで会議を閉じさせていただきます。